



平成29年10月13日に、日本で初めて国宝級の貝塚であると「特別史跡」への認定となった碑。



加曾利貝塚北側で、受講生がボランティアさんからの説明を聞いている様子。



昭和46年に、国の「指定史跡」の貝塚へと認定された碑。



9年10月13日に、「特別史跡」へと国宝級の認定となった。



南北の貝塚ごとに、貝の堆積状態を断面で展示して、通路状の建物内の両側で、当時の縄文人が貝を採取して食べた多様な貝殻名を表示し、貝塚の状態を見学できる施設がありました。



「特別史跡」は、ムラ貝塚であり、住居あとと人骨とその装飾品、土器等の生活用具が出土する最大級の縄文時代の貝塚で、それらを展示する博物館もくぼ地に低く建てられ、景観にも配慮していた。



15Haの土地では、見学できるスペースを確保しながら、部分的な発掘作業を今も継続していた。現在も新たな遺物や遺構等の調査を実施。収集物を増やし、新たな資料から、新たな記録や収集を行っていた

復元した竪穴住居内では、囲炉裏を囲みながら座り、ボランティアによる弓切式火おこしで、種火を作りそれを枯草に入れて炎となる作業の実演を見学できた。



酒々井アウトレットパークのセンター付近の様子
四角で細長い敷地の施設で、犬を連れての買い物をしている方も見られた。
成田空港や東京駅と京成上野駅への高速バスと、JR酒々井駅と京成成田駅への路線バスとのターミナル乗り場としても施設を利用していた。



成田市の三里塚記念公園を南側からのマロニエ並木道をとおり抜けると、御料牧場事務所を記念館として保存している建物が見えてきます。



三里塚記念公園に入り北東側真ん中に柵で囲まれた貴賓館用の門手前で、富来田ふるさと講座は貴賓館から、波岡歴史講座の方は記念館からの説明を聞くため、2つのグループに分けられました。



ボランティアの佐々木さんから、迎賓館と防空壕の各施設の説明を聞きました。



6年前に藁ぶき屋根を補修された貴賓館と話を聞く受講生。



貴賓館の南東側に広がる芝生の庭と広葉樹の風景
外国からの国賓を歓迎する場所となる庭
テントを張り、国際的に問題なく食べられている羊肉を使用する、ジンギスカンを提供した。
日本でジンギスカン料理提供の発祥の地との説明が印象的でした。



明治政府に雇用し牧場運営の当初4年間にアメリカの技術者が居住していた建物を、宮内庁の直轄へと替わり、その建物をここに移設し貴賓館として使用するようになる。また、和室の照明器具の形状は、皇室の紋章「十六八重表菊」とであると聞きました。



藁ぶき屋根の日本家屋で、上部に棟瓦がありその両サイドには、「寿」「龍」「水」など、天皇家を表す文字や火災防止の縁起を願わした特徴があるとの説明を聞きました。



明治時代の窓ガラスは、多少のゆがみが見られる特徴と、ダンスを行える洋館もあり和洋折衷の建物であると説明があり、受講生等は窓から室内も見学していた。



地下防空壕

ハザマ組が工事を担当し、3か月程度で、厚さ70センチメートルのコンクリート製の防空壕
30名程度が入れる大きさで、両側からデイルすることが可能

本体の壕の入口手前に、前室があり、各厚さ40センチの扉が備わっている

地上からの階段は、90センチ幅で降りられて、前室にたどり着く、その階段の反対側はスロープ状に地上へ向かう空洞を設けてあり、爆風が防空壕に直接入らないような構造となっている。

国内に、皇室用の防空壕は4つ建設されて、私たちが見学できるのは、三里塚御料牧場記念館の防空壕だけです。

この防空壕は、一度も使用されていません。

保存と見学できるように、地上部の入口に建物を設置した。

昭和20年の太平洋戦争で米国と開戦する直前に完成した三里塚御料牧場記念館の敷地にある、学習院時代の裕仁親王が避難できるようにと、皇族用の防空壕跡を見学した。